

## 大震災に寄せて一日本人の美德

3月11日、日本の観測史上最大規模となる、マグニチュード9・0という大地震が東日本を襲いました。

最大三十メートルを越す大津波は北海道から関東に及ぶ太平洋岸の町や村を呑み込み、数知れぬ人々と家屋を押し流していきました。

テレビ画面に映し出されたその光景は、私たちのいかなる想像力も及ばない恐ろしいもので、まさに地獄絵図の様相を呈していました。

絶対安全と言われた原子力発電所も自然の猛威の前には余りにも<sup>もろ</sup>脆く、被災地は放射能汚染という最も恐れていた二次災害の危険にさらされています。  
加えて風評被害は人々に更なる苦しみを与えています。

しかし被災者の皆さんは、そんな絶望的な状況下にありながらも、辛抱強く、慎ましく、礼節を失わず、しかも周りを気遣う優しさを忘れていませんでした。

その気高い姿に多くの国民は涙しました。

それは、久しく失いかけていた日本人の心—礼節を重んじる心・私より公を重んじる心・相手を思いやる心、和を尊ぶ心等々—を目に見える形で私たちに気づかせてくれたのです。

海外のメディアは、このような日本人の姿を、驚きと敬意を込めて伝えていました。

★日本がこんなことになるなんて…。本当に素晴らしい国民で働きもので、世界の経済に貢献してきたのに。再興には時間がかかるだろうが、僕達に分かるのはきっとさらに強くなって復活するだろうことを…。 (ロンドン)

★信じられないよ、同じことがロサンゼルスだったら考えられないことだ。パニックや興奮した群衆によって暴力や略奪行為が起きるに違いない。日本人の高貴な哲学がこの結果だ。西欧の自分たちが最も学ぶべきところである。 (アメリカ)

もとより、日本人のこうした高品位の気質は、今に始まったものではありません。

大航海時代(約450年前・日本は戦国時代)日本を訪れた宣教師たちが一様に、日本人の知性や道徳は世界最高であると、本国に報告していたことはよく知られた歴史的事実です。  
(\* 註参照)

この気質の源泉は遠く千五百年前、聖徳太子によって唱えられた「和」の心まで遡ることが出来ます。

古代国家成立に際し、「和」の心を国家の理念として、初めてそれを明文化したのが、聖徳太子制定の十七条憲法です。

仏教的思想を背景に制定されたこの十七条憲法・第一条「和を以って貴しとなす」という、「和」の心こそ、その後、長く人々の精神基盤となって、日本の社会を作り上げてきたものです。

「和」の心は「共に歩む心」です。

それはまた、「相手を思いやる心」、「礼節を重んじる心」、「個人より共同体を重んじる心」「事あるときは一つになって立ち向かう心」などにつながる心です。

震災から一月余りたった四月中旬、かろうじて難を逃れた老人にテレビのレポーターが「助かってよかったですね」と声をかけていました。

その問いかけに、

「自分だけよくてもダメだ 人は 助けたり助けられたりだ……」

と、自問自答するように答えていました。

この言葉に、この老人が如何に「和」の心を大切にしながら今日まで生きてきたかよくわかります。

「自分さえよければ・・・」ではないのです。

「みんながよくなって、初めて自分も幸せになれる。

それは、お互い助け合いながら生きてきたからだ」と言っているのです。

これは東北地方に生きる人々に共通した生き方（人生観）で、本当に教えられます。

震災からやがて二ヶ月を迎えます。

家族を失い、家を失い、仕事を失い、明日への希望も見出せない中、それでもなお復興に向けて長い道を歩んでいかねばならない被災者の苦しみを思う時、察して余りあるものがあります。

しかし、あえてそれを承知の上で申し上げたいと思います。

「どうか希望を捨てずに前を向いて歩いてください」

被災者の皆さんが見せた気高い姿は、多くの日本人が失いかけていた自信と誇りを甦らせてくれたのです。

このことを、私たちは誇りをもって、次代を担う子供たちに伝えていかねばならないと思います。

そうしてこのような素晴らしい日本人の心を取り戻された時、本当の意味で豊かな日本に生まれ変わるのです。

(＊註) 宣教師たちが見た日本人

★この国民は自分たちがこれまで接触してきた諸国民の中で最高に傑出した人々である。善良で、礼儀を重んじ、何よりも名誉を大切にすることは驚くべきことである。 フランシスコザビエル

★日本人は全世界で最も賢明な国民に属しており、彼らは喜んで理性に従うので、我ら一同よりはるかに優れている。忍耐強く、真摯にして信心深く、儀礼に大いに気をつかい、交際においては丁寧である。私は日本語がわかるようになってからは、世界にかくも聡明で明敏な人々はいないと考えに至った。 オルガンティノ (イタリア人宣教師)

★上は武士から下は町人に至るまで、礼儀正しく弱いものを助ける美しい心を持っている。忠義と孝行が尊ばれ、これほど精神の美しさを持つ民族を見たことがない ニコライ (ロシア人宣教師)

平成23年5月 「光明寺だより72号」より